

さる・さく・たけ×はた合戦で獣害対策 ～みたけの里づくり協議会(丹波篠山市畑地区)～

課 題

- ・生産者（農家）、捕獲者（猟師）の高齢化と減少。
- ・休耕田や耕作放棄地の増加、狩猟機会の減少。
- ・野生動物が出没しやすい環境に変化。
- ・集落による柵の点検や草刈などの定期実施が困難な状況。
- ・豊かな里のめぐみや自然と調和した人の暮らしが喪失。



みたけサル追い払い隊

取 組 内 容

- ・丹波篠山市畑地区の10集落で構成された住民主体の協議会であり、獣害対策のほか、子供の行事等も実施。10集落の農用地面積は、206ヘクタール。
- ・サル位置情報配信システムを活用し、位置情報をメッセージアプリで集落間で共有。位置を把握しながら、各集落から選抜したみたけサル追い払い隊やモンキードッグによる効率的なサルの追い払い活動を実施。
- ・檻内の状況を映像で確認し、入口を遠隔操作で閉じることができる I C T 大型捕獲檻を設置。
- ・放任柿の収穫イベント「さる×はた合戦」、集落防護柵のメンテナンス作業イベント「さく×はた合戦」、竹林の整備イベント「たけ×はた合戦」を実施。
- ・丹波篠山市は、令和2年度に「獣がい対策推進計画」を策定。マイナス課題の「獣害」を資源に変え、地域を元気にする前向きな取組を「獣がい対策」とし、その取組の普及のため、毎年、畑地区において獣がい対策実践塾を開催。また、令和7年度に開催した獣がいフォーラムでは、みたけの里づくり協議会の取組を紹介。

さる×はた合戦、さく×はた合戦、たけ×はた合戦とは

- ・獣がい対策を「合戦」に見立て、一緒に活動してもらえるサポーター「戦士」を畑地区内外から募り、あわせて畑地区の農産物や風景などの魅力を発信。
- ・定期的に訪れるファンや関係人口作りの場とする企画。

・さる(猿)×はた(畑)合戦 (平成25年度～)



猿蟹合戦になぞらえサルの出沒原因になる放任柿の収穫イベント。

・さく(柵)×はた(畑)合戦 (令和2年度～)



山際や山中のシカ・イノシシ対策の金網柵(集落防護柵)のメンテナンス作業を行うイベント。

・たけ(竹)×はた(畑)合戦 (令和5年度～)



タケノコを獣が食べる前に収穫するとともに潜み場となる荒廃した竹林を整備するイベント。

～関係人口と取り組み獣がい対策で地域を元気に！～

第7回 獣がいフォーラム

日時：令和7年2月9日（日）午前10時～
場所：丹波篠山市民センター（黒岡191）

【事例発表】
畑地区で進めてきたこれまでの獣がい対策の取り組み
（みたけの里づくり協議会のみなさん）
放棄柿を使った商品開発～「獣い×熊たし」ロップ～
（兵庫県立篠山実業高等学校）
獣がい対策支援員の取り組み
（獣がい対策実践塾）
【パネルディスカッション】
「関係人口と進める獣がい対策のこれから」

獣がいフォーラムチラシ



関係人口による獣害防護柵の設置

成果と今後の目標

- ・出沒率に変化、被害軽減の目標を達成。また、畑地区へ訪れる人が増加。
農作物被害金額（畑地区） 1,732千円（H28）→ 33千円（R6）
- ・市内の高校との連携により放任柿をジャム、パウダー、ドライフルーツに加工し商品化。柿ジャムはふるさと納税返礼品に。
- ・他の地区にも波及し、大山小学校では小学生自ら電気柵を設置し、これまで獣害で取れなかった特産品の大山スイカの収穫に成功。また、西紀北地区では、令和6年度から2年間配置した獣がい対策支援員を中心に、畑地区の獣がい対策を活用し普及。
- ・企業や大学生が、さく×はた合戦など獣がい対策に参加し、関係人口の増加につながる。
- ・サルやシカ・イノシシ被害対策が高く評価され、令和7年度鳥獣被害対策優良活動表彰で農林水産大臣賞を受賞。
- ・「獣がい対策」の支援をきっかけに、特定地域への愛着や関わりを深めながら、地域課題の解決や活性化に多様な形で関わり貢献する「関係人口」のさらなる創出・拡大を目指す。そして守り伝えたい、人が集まる魅力ある丹波篠山にするのが目標。